

(案)

「革新的新構造材料等技術開発」の第2期ステージゲート評価の確認に対する意見のとりまとめ

「革新的新構造材料等技術開発」の第2期ステージゲート評価の確認に対する意見について、以下のとおりとりまとめました。

なお、第126回評価専門調査会後に追加の質問・意見を照会させていただきましたが、特段、意見・質問等はありませんでした。

1 全般に関する意見

- ・多数の大学・企業が入って実施している研究開発プログラムに対する評価のよい事例である。
- ・ユーザーの要望を取り入れて具体的に物性とか性能、品質、コスト等の目標設定して開発を行うように取り組んでいる。

2 NEDO におけるステージゲート評価結果について

- ・全体的な評価として中間評価を実施し、それを受けて個別課題の評価を技術推進委員会において実施しており、体制としては妥当である。
- ・中間評価における評価は「事業の位置づけ・必要性」、「研究開発マネジメント」、「研究開発成果」、「成果の実用化・事業化に向けた取組及び見直し」を評価基準とし、第2期ステージゲートの成果から第3期ステージゲートに向けた指摘事項に対して対応方針も示されており妥当である。
- ・技術推進委員会における評価は、「実施計画書記載の目標への到達見込み」、「前年の技術推進委員会アクションへの取組とその成果見込」、「中間評価結果も考慮しテーマごとのステージゲート審査の実施」を評価基準として実施しており、これに基づいて、個別課題に対する継続、再編、終了等を行っており妥当である。
- ・次回のステージゲート評価においては、実用化を見据えた設計技術としてマルチマテリアルの設計技術を追加して実施するに当たり、ユーザー企業からの要望を把握しながら進めていくこととしているが、それに対する評価項目を加えるべきである。

3 アウトカムに向けた取組

- ・世界的に電気自動車が今後主流となる流れの中で、世界的な動向を常に注視しつつ、自動車全体に占める重量軽減の方法(軽減する部位の変更等)について議論を進め対策していくことが重要であり、道筋の見直しについて、常に念頭において進めていくことが必要である。

4 国際競争力

- ・自動車の重量を50%軽減するといった非常に困難な課題の中で、プロジェクト全体の中でSDGsという概念で世界的な競争力を求めていくなど、更に新たな課題も見据えつつ、協調領域について常に見続けながらやっていく考え方が重要であり、その方向で継続して取り組むべき。